

院生室のローパーティション工事概要



若 者

多 田 元 英*

建築工学科には、全6講座のうち構造系の講座が3講座あり、構造系に配属された学生は共用の大部屋に各自机を並べて勉学に励んでおります。ところが近年の学生数の増加により、部屋が次第に手狭となり、すべての学生に机を割り当てるには、一人あたりの占有面積を減らすしか方策がないという状況に至りました。そこで従来、机とサイドキャビネットでワンセットとしていたものから、サイドキャビネットを取り上げようとしたところ、学生から「本、資料を置くスペースがない。」との不平の声が上がり、考えついたのが本棚付きのローパーティションであります。早速、家具屋に見積を取ったのですが、高級指向のものばかりで最低のグレードでも机43台分で300万円近い見積となり、自作するしか手はないという結論に至りました。そこで、私が以前設計事務所に勤務して建物の構造設計に従事してきた経験を買われて（こじつけの理由ですが）、設計・見積・資材調達・現場管理をする羽目になってしまいました。同様の問題を抱えておられる研究室もあらうかと思ひ、以下に設計から施工までの概要を紹介しつゝ。

机の配置は向かい合わせの列状で、主要骨組は日用大工店で売っている穴明きアングルとしこれに棚板受け用の部材を取り付けます。机の前面と側面に目隠し板を設け、前面板は長手方向の、側面板は直交方向の倒れ止めに寄与させます。組立は素人でも容易に行えるよう、全てボルト接合とします。通称ベニヤは、コンパネ、合板、シナベニヤの順にグレードが上がり、本設計では前・側面板にシナベニヤを、棚板に合

板を用いています。

板材はカッティングリストを作図して発注し、所定の寸法に切断して納入してもらい、（当然切り手間料は必要です。）アングル材は棚板受け用を除いて、既製の定尺物を使用します。従って、我々の作業は板のボルト孔明け、棚板受けアングルの切断、組立のみとなります。

これらの作業をユーザーである学生を総動員して行うわけですが、事前に試作品を1台作成し、適宜設計変更を加えた後、板材の穴明け位置図、部材の取り付け位置図を作成して、学生に周知させてから本工事にとりかかりました。本工事では、構造実験室にて板の穴明け、およびアングル材と側面パネルの組立を行い、ユニットごとに現場に搬入して、前面板、棚板を順次取り付けていくという要領で作業を行った結果、机43台分のローパーティションを8時間程度で作り上げることができました。

次頁に完成写真と図面を添付します。ちなみに総材料費は家具屋の見積の1/5程度、工賃は学生のボランティアにより只と格安の額となり、（貧乏な？）大学の研究室にとっては願ったりかなったりの結果となりました。

最後に、本工事を行う上で、楽しく且つ真剣に作業をしてくれた学生諸君、いろいろとご助言を戴きました建築工学科構造系の諸先生方、事務手続きにご協力戴いた右近喜志正さん、鹿田紀代子さん、採算を度外視して資材を納入して戴きました（株）関西機器製作所の宮田政信さんに深く感謝いたします。

*多田元英 (Motohide TADA), 大阪大学工学部, 建築工学科, 五十嵐研究室, 助手, 鉄骨構造学

